

平成25年度 三条市算数部 活動報告

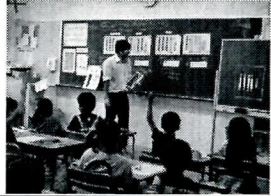


部長 上野 朋栄

1 研究主題 「子どもとのかかわりから考えを広め深める授業の工夫」

2 研究の概要

- (1) 第一回一斉研修では、若手から研究主題に沿って授業公開をやっていただき、「かかるとは」「考えを広め深めるとは」と具体的な姿を通して検証した。
- (2) 第二回一斉研修では、「小中一貫教育と算数科指導」と題して、三条市小中一貫教育推進課教育センター指導主事より御講話をいただき、三条市の教育について一層の理解を深め指導力の向上を図った。

3 研究の実際

月 日	活動の概要（活動名、概要、指導者等）	会場・参加者数
6月21日	<p>◎授業研究 一ノ木戸小 2年2組</p> <p>「2けたの数のひき算」担任 池田清太郎 教諭</p> <p>・繰り下がりのある2けたのひき算において、一の位同士で計算できない時は、10のかたまりを1つだけ繰り下げれば計算できることを理解し、それを説明できるようにする子どもを目指した。</p>	<p>・一ノ木戸小学校 2年2組教室 26名</p> 
9月25日	<p>◎新教育課程研究集会報告</p> <p>森町小学校 野口 大樹 教諭</p> <p>・数学的な考え方の育成を意識して行うことで数学的な見方考え方が徐々に身につく。評価は、毎時間4観点は無理なので、精選する。思考力、表現力が相互に関連し合うことが大切である。</p> <p>長沢小学校 多田 歩美 教諭</p> <p>・自分で考えたことを表現する力は、教え合ったり説明し合ったり、児童が互いに交流し合う活動から磨かれていく。</p> <p>◎「小中一貫教育と算数科指導」についての講話 講師：三条市小中一貫教育推進課教育センター指導主事 小杉 洋一 様</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教材研究の仕方・考え方 2 小中一貫教育の視点を取り入れた教材研究 3 算数科指導と数学科指導 4 いくつかのエピソード 	<p>・大面小学校 会議室 25人</p>  

4 成果と課題

- 1回目の授業研究は、「子ども同士がかかわる」という意味で新たな提案をいただいた。ペアやグループ、全体で話し合うだけでなく、友達が考えた繰り下がりのあるひき算をみんなでブロックで確かめることも間接的なかかわりであることを学んだ。
- 2回目の小杉指導主事から、小中一貫教育の視点から教材研究することで9年間の指導内容を理解し、その学年その学年の「今、やるべきこと」の意味や重要さが見えてくる。また、小学校では量感を培い中学校の抽象概念へとつなげる。
- 今年度はよき授業者に恵まれ、快く授業を引き受けてくれて助かった。やはり、授業を参観し子どもの姿で話し合えることが一番、明日への実践につながる。今後も、授業者の確保に努めていくことが必要である。